

第3回大月市立小中学校適正配置審議会会議録

- 1 日 時 平成17年10月27日(木曜日)
開 会 午後7時00分 閉 会 午後9時00分
- 2 場 所 市民会館4階会議室
- 3 委員の出欠 出席者 棚本副会長、杉本委員、佐藤(尚)委員、萩原委員、石井委員、相馬委員、小原委員、三木委員、秋山委員、平井委員、小林(功)委員、小林(一)委員、山浦委員、小池委員、渡辺委員、藤巻委員、佐藤(章)委員、小俣委員
欠席者 天野会長、金子委員
- 4 事務局の出欠 出席者 山口教育長、小笠原参事教育次長、坂本学校教育課長、伊奈学校教育課主幹課長補佐、坂本学事担当リーダー、鈴木学校適正化推進担当
- 5 付議事件 (1)シミュレーションによる検討
(2)その他
- 6 議事の概要

付議事件

(1) シミュレーションによる検討について

事務局から各委員による大月市の特性及び市立小中学校をめぐる状況や将来動向を踏まえた適正規模・適正配置シミュレーション結果の資料に基づき説明を行うとともに、各委員による質疑応答がなされ、今後の適正配置を進めるうえで貴重なご意見をいただいた。また、これに先だち、学校教育課長より第2回会議録内容の報告がおこなわれ承認された。

(2) その他について

特になし。
なお、議事内容については、以下のとおりである。

議事 (1) 第 3 回 審 議 会 の 開 催 に あ た り 、 副 会 長 か ら あ い さ つ が 行 わ れ た。

(2) 事 務 局 か ら 配 布 資 料 の 説 明 が 行 わ れ た。

(3) 説 明 の 後 、 概 ね 、 以 下 の よ う な 質 疑 応 答 が 行 わ れ た。

副 会 長 　　た だ 今 、 事 務 局 よ り 説 明 が あ っ た わ け で す が 、 初 め に 中 学 校 に 関 し て の ご 意 見 ご 質 問 を お 聞 き 致 し ま す。

委 員 　　シ ミ ュ レ ー シ ョ ン 結 果 資 料 の う ち 吸 収 合 併 (統 合) は 適 切 な 言 葉 で な い の で 削 除 し て は。

事 務 局 　　今 後 、 統 合 と 言 う 言 葉 で 統 一 し た い。

委 員 　　削 除 す る こ と で ご 理 解 願 い た い。

委 員 　　年 次 的 な 統 合 よ り 最 終 的 に 2 校 で 一 本 化 し た 方 が 良 い と 思 う 、 統 合 す る 際 新 た な 校 名 を 考 え た 方 が よ い の で は。

副 会 長 　　ど う で し ょ う か 。

事 務 局 　　今 は 将 来 ど の よ う な 適 正 配 置 編 成 を 考 え る か と 言 う 段 階 で す 。 今 後 、 統 合 を 行 う 際 に は 当 然 校 名 も 視 野 に 入 れ な が ら 考 え た い 。 ま た 、 少 子 化 が す す む 中 で 地 域 の 理 解 を 得 な が ら 肅 々 と 適 正 配 置 の 推 進 を し た い 。

副 会 長 　　宜 し い で し ょ う か 。

委 員 　　解 り ま し た 。

委 員 　　先 ほ ど の 事 に な り ま す が 校 名 を 変 更 す る と 校 則 、 校 歌 等 全 て 代 わ る の で 危 惧 さ れ る 。

委 員 　　関 連 で 以 前 か ら 統 合 の 際 校 名 に つ い て は 論 議 さ れ て き た が こ の 事 は あ ま り 気 に し な い で も 良 い の で は 。

副 会 長 　　ご 理 解 願 い た い 。 そ れ で は 2 校 案 に 絞 り た い が 。

事 務 局 　　も う 少 し 論 議 を し て 頂 き た い 。

副 会 長 　　意 見 を お 願 い し ま す 。

委 員 　　私 も 子 供 が 少 な い の で 統 合 は 仕 方 が な い と 思 う が 、 小 規 模 校 で も 良 い と 思

う。現在の太月市の場合、少人数によるきめ細かな指導が可能であるという利点がとても有効に働いている。学校の荒廃もなく、落ち着いた中でひとりひとりの児童、生徒が大切にされ、日々の学校生活を送ることができている。学校統合が行われた場合でも、このような教育環境、内容、質が現状よりさらに向上して欲しい。きめ細かな指導が行き届く加配制度、STのさらなる充実等が考えられる。また審議会として太月市の教育ビジョ的なものも打ち出していく必要があるのではないかとと思われる。単に子どもの数が減るからまとめなければいけないというのではなく、太月市として将来を担う子ども達を育てていく未来像を持ち、夢や希望の持てるものにしたい。現在太月市を出ている人達の中にも、太月市で素晴らしい教育がされているならば、子どもの入学を機に戻ることを考えている人がいるのではないかと、中学校であれば、小規模校で部活動の制限があり成り立たないことが考えられる。この部分について、スポーツクラブ的な構想で、市内中学校全体を指導することは考えられないだろうか。

副会長 参考にしていきたい。

事務局 今、委員が言われたとおりだと思ふ。行財政等の観点から考えると現在本市の政策で講師を雇用し複式学級解消等のカバーを行っている。また、学校数が多いため教育費も多い、現在1校にかける予算が少なく教育環境の良い施設の中で子どもたちに学習させるには限界が来ている。集約することにより教育施設の充実、先生の配置、予算等教育効果をさらに向上させていきたい。児童生徒を中心に考えた適正配置を考えている。また、学校集約化を行いながら現在行っている施策をより充実させながら継続し適正化をすすめるなかで考えてもらいたいのでご理解願いたい。

副会長 他にございますか。

委員 学校の統合でなく学区の統合で宜しいのでしょうか。

事務局 そのとおりです。基本的には学区イコール学校です。

副会長 2校案にしたいが他に意見ございますか。

委員 もう少し各試案について検討した方がよいのでは。

副会長 2校、3校案が多いのでその方向でご検討して頂きたい。

委員 2校案を想定している。H15年七保中が統合し、来年富浜中が統合予定であり、これらの学校は早期統合については負担がかかりすぎる。将来的には(H29年度以降)猿橋中に統合する方向で考えていきたい。太月東中と太月第一中については、早期統合を望みたい。

委員 私の考えは、基本的には現在の施設を使用する。先ほどの意見と同じだが大月第一中が統合する場合、通学距離が遠くなる地域がでてくるので危惧される。

委員 我々の意見は段階的にH20年度3校に統合し、その後H25年度2校とするシミュレーションを行った。今までの統合の経過をみてもスムーズな統合は総体的に全地域を集中的に行うべきである。

委員 私もその意見に賛成です。

委員 統合をしてスクールバスでの利用をした場合、現在徒歩で通学している地域は通学時間が短縮される。

副会長 このようなことも想定されますのでご理解願いたい。

委員 先ほど小規模校の良さのご意見があった。現在の審議のながれでは2～3校の複数学級、学校の適正化をはかる話であったと思う。そのようになった場合ST制度等によって先生方の人数を補充するなかで小規模校のよさを取り入れながら学校運営できるのか現場経験のある委員にご意見を伺いたい。

副会長 委員お願いします。

委員 少子化がすすんでいるなか統廃合することは市民の方々はある程度納得出来ると思う。どの程度の規模、統合の時期はいつからになるのか関心があると思われる。先ほど話しがあった国中地域から来た先生によると大月地区はイジメや不登校がほとんどない、国中地域では学習指導より生徒指導に手がかかる。逆に大月の場合子供達が素直で純朴で一生懸命やってくれるので非常に恵まれている。何で大月地区が恵まれているのか考えてみると、今後の大月教育の指針になるのでは、子ども達をどのように育てていくのかが中心になる。人数合わせでの統廃合はうまくいかない。考えられるのは大月市でどのような子ども達をどのような形で育てて行くのかを全面に打ち出していく必要がある。あまりにも子どもが少なく集団活動、行動がとれないある程度の指針を示しながら統合はしかたがない、統合することによりこんな良い面もあることを示しながら統廃合を行った方がよい。仮に中学校2、3校、小学校5、6校になった場合、今までより1校あたりの児童、生徒数は多くなるが今までよりもきめ細かな指導をしていくことにより市では今までと同じよう子ども達に教育ができるというような具体案を示していかないとこの統合推進は市民に理解されない。地域住民を説得し安心させていく方向性を出していく必要がありこれらが統廃合を推進していく上での原動力になるまた市民を説得させることとなると思う。

- 委員 私も賛成である。教育理念に基づいて学校教育を推進していくかその為に統廃合が必要とゆうことを審議会として答申を出さなければならない。数合わせの統廃合では市民のご理解はいただけないし、この審議会で議論する意味がない。子ども達への教育について効果等についてももう少し議論したらどうか。
- 委員 小学校の場合ですが、県では1、2年生に加配クラス30人学級でおこなっている。以前県でアンケートを行った結果、先生達にとっても保護者にとっても非常に有効な制度で要望も多い。最近、特別に支援していかなければならない子どもが増えてきているなか教育効果もあがっている。
- 副会長 わかりました。
- 委員 学級数の問題が重要かと思われる。1学年1学級の良さと言うことで先ほどの意見を受け止めたが、それが3学級になったとしても人員配置をする事によって同様の効果が見込まれるとの考えでよいのですか。
- 委員 学校現場でそれぞれ考えがあろうかと思われませんが、それと同時に統合し学級数が増えたとしてもST制度等を堅持し続け、たとえば芸術、体育等の専門的な先生を雇用することにより、今までにないような効果が目に見えて現れてくると思う。このような施策をもう少しつめていくなかで市のプランを示していけば市民も納得するのではないか。
- 副会長 よろしいですか。
- 委員 本市の場合大規模校と小規模校の格差が激しいと思う。生徒の少ない学校を経験しているのでそういった学校では生徒の序列化ができる。当時同年代の方々の中に小規模校で子どもを地元の学校に通わせたくない家庭もあった。先ほどのきめ細かな教育以前の問題でかなり不安をいただいた。今まで統合を経験した地区の親とそうでない地区の親とでは考えが違う、教育理念も大事だが結局は教育理念までいかないのが現状であることを解って欲しいと思う。
- 事務局 お二人の委員より大変貴重なご意見がだされたと思います。先ほどからきめ細かな教育とは必ずしも学校が小さいからではない。文部科学省の指針にもそのようなことが打ち出されている。現在、県や本市が行っている事業もその先取りである。規模の大きい小さいに関わらずそのような事業を継続する事によってきめ細かな学習ができると思います。市内の学校は小規模校化してきている。こうした状況で本当に正常な学校運営をすることができるのかが心配になります。そして、先ほど委員ご指摘のように適正化をすすめるうえで市としての事業方針を打ち出すなかで学校規模の編成をする事によってST加配の充実や学校適正規模化により、もっときめ細かにする事ができて子ども達の将来、教育環境も整えられ1校あるいは、

1人当りにかけられる予算も充実される。

また、学校規模の規定は前回資料のとおりであります。最低でも1学年2学級いわゆる複数学級での学校運営が望ましいと考えられる。最近学区外申請の理由も小規模校からある程度大きな規模の学校への申請が多い状況にあります。こうした内容にも配慮しながら今後、適正配置をしていく必要がある。

副会長 解りました。

委員 現在の小規模校の地域住民の声や現在の状況、及び過去の地域住民の学校への取り組みや思いの状況を踏まえ統合をしていかなければならない。

副会長 参考にしたい。

副会長 他にございますか。

委員 小規模校の地域の人達はなぜ統合にいままで反対をしたのか、今までの議論と矛盾するところがあるその所を知りたい。

委員 殆どが地域のお年寄りです。その人達が過去の状況から学校は地域の拠り所として非常に愛着があるからです。

副会長 中学校から小学校に論議が変わっているようだが。

委員 小学校と中学校とでは論点が異なるので、原点に戻って中学校の論議を行なって欲しい。

副会長 時間が迫ってきましたが。

事務局 中学校については2校から3校案に絞り、これに関する参考資料を事務局で作成し、次回審議会の検討資料とする。また次回審議会は、小学校の議論にも入って行きたい。

副会長 次回審議会はそのように行いたいので承知願いたい。

最後に、副会長より、次回、日程を11月25日(金)午後7時より市民会館と決め、閉会した。